

優秀賞

まがり角

成蹊中学校 2年 児島 っこ

「どうしてうちは普通じゃないの？」

小学校四年生の時、私が母に放った一言。その言葉に母は困ったように笑っていた。私の母は、私が小学校四年生の時に、突然スリランカカレー屋をはじめた。今まで専業主婦だった母に比べると、やはり忙しさは倍増していたため、子供に構う暇などなかった。そのため、学校の保護者のサインがいる提出物や、購入しなければならぬものなど、遅れることが多くなっていた。まわりの友達のみな、普通に提出期限に出しているのに、自分だけ違う。私は普通じゃない。小学校高学年とはいえ、みんなと同じ、平均、普通。そういつた言葉を気にしていた私には、辛い状況だった。私はただ、普通の女の子になりたかっただけなのだ。

でも、私はある日気付いた。カレー屋をはじめる前、はじめた後で、母の写真を見比べた時。圧倒的にカレー屋をはじめた後の方がいきいきとして、輝いてみえた。その時私は、やはり母にはカレー屋が必要なんだと感じた。それに、母だつて昔は普通のお母さんだったんだ。でも、スリランカ、そしてカレー屋という、人生のまがり角を見つけて、母はこんなにも変わったんだ。そして私は、やつと一番大切な事に気付けた。普通にこだわらなくていいんだ。いや、むしろ普通じゃない人生の方が、ずっと楽しいんだ、ということに。

母が教えてくれた、人生という道を楽しむ秘訣、それは、まがり角を見つめること。まだ、曲がり角など見えないような私には、もしかしたら難しいことかもしれない。でも、いつか見つけることができれば、その時は恐れずに飛び込んでみたい。不器用な私は、何度も失敗して転んでしまうこともあるだろう。でもきつと、いつでも私のとなりに、母がいてくれる。だから私は迷うことなく、私の、私だけの道を歩き続ける。私の道は、まだ始まったばかりだから。